

グループワーク「逗子のまちがよくなるために、市民はどうあるべきか」

テーマ① 豊かな自然環境に囲まれた暮らし

※第1回ワークショップのまとめから抜粋

逗子でこういうふうに暮らしたい	そのために必要なもの、こと。そのためにできること、しなければいけないこと
自然を大切にして、次の世代に継承していく	<ul style="list-style-type: none"> ○開発をやめる ○トランクルームはやめてもらいたい ⇒雰囲気が良くない ⇒規制を ○池子の森を市民が生活の一部となるような公園に ⇒もっと自由に使えるように ○恵まれた自然を 海と山の
海や山などの緑豊かな環境での暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ○今の緑を維持していくために緑を植えたりする
自然が多い(環境の良さ) 海、山、川を大事に生かして楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ○良さを知るためにワークショップ ○広報活動、アピールする
今ある自然を残して緑のあるきれいな町で暮らしたい	<ul style="list-style-type: none"> ○住民がゴミを捨てる時のマナー、ルールを作ってそれを守ってもらう(守ることが環境づくり) ○まずは、地域の代表(気づいた人)が見守り、整理整頓、奉仕の精神。⇒自らの心がけに
緑豊かなまちで暮らし続けたい ・きれいな田越川 ・美しい山々	<ul style="list-style-type: none"> ○土地の分割の制限をする(小さい土地に木を埋めることはできない) ○「特別保存緑地」を増やすことを本当に真剣に取り組む ○緑化に関連して、私学の土地に対する税金を投入できない決まりを解決するような条例にしたい
環境保持(自然、緑)	<ul style="list-style-type: none"> ○緑を大切に。田越川の水のきれいさを保持(ホタル) ○海岸のきれいさを保持。次世代に続く、つなげていく ○環境活動を行っていく
環境を大事にしたい	<ul style="list-style-type: none"> ○税収が必要 ○市外から観光に来た人がお金を落とす仕組み ○ふるさと納税(市民、市民以外の) ○使用料の差別化 など
自然環境を豊かに守っていけるまち	<ul style="list-style-type: none"> ○緑地を守る条例の厳守
自然を生かした街並みで	<ul style="list-style-type: none"> ○海と山をつなぐ移動手段があれば ⇒整備

グループワーク「逗子のまちがよくなるために、市民はどうあるべきか」

テーマ② コミュニティなど人の交流が盛んな暮らし

※第1回ワークショップのまとめから抜粋

逗子でこういうふうに暮らしたい	そのために必要なもの、こと。そのためにできること、しなければいけないこと
みんなが楽しめる街	<ul style="list-style-type: none"> ○趣味、サークルを通じて ○外国人や転入をしてきた人たちも楽しみ、交流のできるまち ○週末に楽しめるイベントをやってみてはどうか。いろいろな人が入りやすい。気軽に参加できる。 ○市民の人と観光客が楽しめる。
コンパクトシティ、コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ○互いに相談できる関係づくり ○もっと市民が顔を合わせる場、意見交換できる仕組みづくり
コミュニティに参加(入りやすい)しやすいまち	<ul style="list-style-type: none"> ○新たに転入してきた人もコミュニティに参加しやすい雰囲気を作る
人とも関わりを持ちたい	
人が集まれるイベントのあるまち	<ul style="list-style-type: none"> ○イベントに三世代で参加できる ○情報の一元化(どこで、いつ、何が起きているのか)
いろいろな世代と一緒に暮らしたい	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションが必要 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の 世代をわたっての ・お互いの情報共有 ⇒ルールづくり ←後で文句を言わないように意見を言う <p>(最近、年寄りと若者の交流が減っている。核家族化で分断されているという話から…コミュニケーションが必要だとわかっている、自分から動かない。声を出してみることも大切。声を出すことでルールが作られていく。いろいろな関わりを持つことで交流ができる)</p>
活気があるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○若い世代に来てもらう。住みたいと思うまちに ○中・高生のコミュニティ交流を ○空き家対策 →空き家に住んでもらう ○「あいさつ宣言」逗子のまち
年代を問わず楽しく暮らしたい	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティを大切にする ○世代間交流。それぞれの得意分野を活かす ○男性も活躍できるように

グループワーク「逗子のまちがよくなるために、市民はどうあるべきか」

テーマ③ 安全で安心な暮らし

※第1回ワークショップのまとめから抜粋

逗子でこういうふうに住りたい	そのために必要なもの、こと。そのためにできること、しなければいけないこと
安心・安全な暮らし	○地域で自分たちで街を守るために行動をする
防犯、安全、安心な暮らし (子育て、子どものためにも)	○防犯カメラ設置。 ○歩行者、自転車に安全な街(下水のふたの整備、歩いて通れるように) ○定住者を増やし(将来のために財政増)、市の良さをPR(交通便利) ○第一運動公園は良いところだが行きにくい。バスが欲しい。
安心安全な街のイメージを押し出して いきたい(作りたい)	○電柱などの地中埋め込みやライフラインの整備(誰もが利用しやすい街づくり) ○景観についての見直し
安心・安全	○道の整備(車いすやベビーカーを利用できる道) ○街灯が少なく暗い ○ブロック塀をやめる(災害に備えて) ○医療機関の充実
安心・安全な街で	○総合病院と救急病院が必要 ⇒搬送時間がかかる。持ち回りでの近隣での協力体制もいいのでは ○健康年齢を維持する ⇒動きやすく道路を整理する。交通機関、移動手段も含めて
安心して暮らせるまちづくり	○総合病院の誘致 ○防犯カメラの整備 ○皆であいさつするまちに ○通学路の整備(子どもの安全、安心) ○災害対策(津波)避難経路
安心・安全	○道を広くする。自転車が危ないので交通ルールの教育 ○住民同士の見守り